

#### 4 鍛冶工房跡から出土した遺物



鞆（ふいご）の羽口

右：鉄鉗（かなはし）  
左：不明鉄製品

椀状滓（わんじょうさい）

#### 5 調査の成果

今回の調査によって、古墳時代から室町時代にかけての集落が平成 27 年度の調査区から南に広がっていたことが確認できました。

古墳時代中期の第 81 号竪穴建物跡から、割れた状態で銅鏡（小型仿製鏡）が出土しました。鏡は、古墳の副葬品として出土するのが一般的で、竪穴建物跡からの出土は稀で、県内で 3 例目となります。鏡は威信財であると共に、祭祀の重要な道具の一つと考えられていることから、当遺跡が古墳時代における拠点集落であったことが推察されます。

奈良時代の遺構では、鍛冶工房跡 3 基を確認し、平成 27 年度の調査区から続いていることが分かりました。鍛冶工房跡は、ほぼ等間隔で配置されており、第 2 号鍛冶工房跡（平成 27 年度調査）と今回調査した第 6 号鍛冶工房跡は同時期の 8 世紀後葉であるため、同じ鍛冶集団によるものと考えられます。また、出土した鍛造剥片（鉄をたたいた時に出る鉄片）は、大きいもので 7mm 以上のものが多くあります。一般的に鉄の精錬鍛冶（鉄塊を鉄素材に仕上げる大鍛冶）で生じる鍛造剥片の大きさであり、本工房でも精錬鍛冶が行われていた可能性が高いと考えられます。また、鍛造剥片、粒状滓、鉄滓の出土量の多さや鍛冶炉の作り替えなどから、相当数の鉄素材を生産していたと推測されます。

室町時代の遺構は、遺跡を東西約 60m、南北約 40m の長方形に区画するように掘られた溝を確認しました。区画溝の三方向の隅（北西、北東、南東）の浅い土坑からは、輪宝墨書土器（土師質土器小皿）が出土しています。（南西は、調査区外のため未確認）これは、溝による区画の四方隅で地鎮を行っていたものと考えられます。

この発掘調査遺跡現地説明会資料は、調査中途の限られた情報で、かつ最終的な結果ではありません。つきましては、資料の引用・掲載はご遠慮願います。



茨城県教育財団遺跡紹介展を 1 月 22 日（日）まで茨城県立歴史館で開催中です。

次回の現地説明会は、1 月 22 日（日）に石岡市東田中遺跡で開催予定です。

発掘調査の成果をぜひご覧ください!!

平成 28 年 12 月 18 日（日）発掘調査遺跡現地説明会資料  
島名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

## 島名本田遺跡（しまなほんでんいせき）

所在地：つくば市島名字薬師 1829 番地ほか

調査期間：平成 28 年 6 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

調査面積：3,841 m<sup>2</sup>（南区）、4,946 m<sup>2</sup>（北区）

委託者：茨城県土浦土木事務所つくば支所

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（つくば島名事務所）

TEL 029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

#### 1 遺跡の立地と歴史的環境

島名本田遺跡は、つくば市の南西部に位置し、谷田川右岸の標高 19～24m の台地上に立地しています。周辺には、谷を挟んだ東側に古代の拠点的な集落跡である島名熊の山遺跡、北側に島名中代遺跡や島名関ノ台南 B 遺跡、南側に古代の鍛冶関連遺跡の島名八幡前遺跡が所在しています。これらの遺跡は、古墳時代後期から平安時代にかけての集落跡が中心であり、それぞれが密接に関連し合っただけでなく、古代「嶋名郷」を形成した一大遺跡群と考えられます。当遺跡は、平成 23 年度の第一次調査で、奈良・平安時代の竪穴建物跡や井戸跡、鎌倉・室町時代の掘立柱建物跡や地下式坑、堀跡など、平成 27 年度の第二次調査で、古墳時代後期、奈良・平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡、奈良時代の鍛冶工房跡などを確認しています。

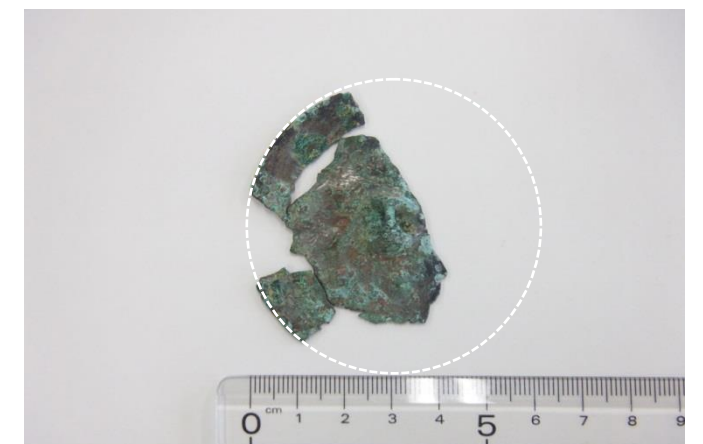
#### 2 調査の概要

今年度の調査区は、平成 27 年度調査区の南と北に隣接しています。確認した遺構は、古墳時代の竪穴建物跡 13 棟、奈良時代・平安時代の竪穴建物跡 20 棟、掘立柱建物跡 5 棟、鍛冶工房跡 3 基、室町時代の井戸跡 2 基、地下式坑 1 基、段切り状遺構 1 か所のほか、各時代の土坑約 150 基、溝跡 18 条、道路跡 2 条などです。主な出土遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、磁器、土製品、石器、石製品、金属製品、銭貨などです。

そのうち注目されるのは、古墳時代中期（1,600 年ほど前）の竪穴建物跡から出土した中国鏡を模してつくられた日本製の銅鏡（小型仿製鏡）、奈良時代（1,300 年ほど前）の第 6 号鍛冶工房跡、室町時代（400 年ほど前）の方形区画と考えられる第 39 号溝跡の内側から出土した輪宝墨書土器（内面に輪宝が墨書された土師質土器小皿）などです。



島名本田遺跡と周辺の遺跡（茨城デジタルマップより）



第 81 号竪穴建物跡から出土した銅鏡



### 3 主な遺構

#### 【第362号土坑（室町時代）】

第39号溝跡の北西隅にあたる場所から2枚の土師質土器小皿が出土し、そのうちの1枚が輪宝墨書土器です。



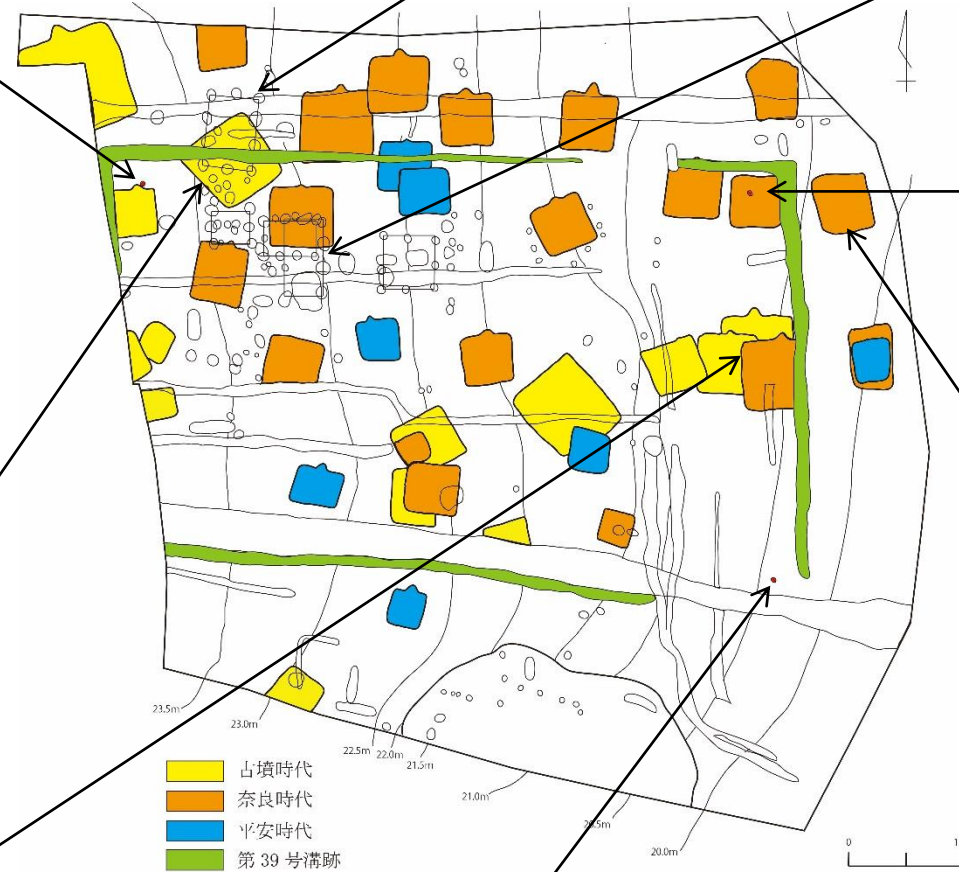
#### 【掘立柱建物跡（奈良時代）】

調査区の北西部で掘立柱建物跡4棟を確認しました。第13号掘立柱建物跡（写真左）や第14号掘立柱建物跡（写真右）は、側柱建物の構造で、倉庫などに使われていたと考えられます。



#### 【第368号土坑（室町時代）】

第39号溝跡の北東隅にあたる場所から土師質土器小皿が3枚出土し、そのうちの1枚が輪宝墨書土器です。



#### 【第81号竪穴建物跡（古墳時代中期）】

西壁近くの床面上から銅鏡（小型仿製鏡）が出土しました。銅鏡は3つに割れており、鏡面を上にした状態でした。



#### 【第83号竪穴建物跡（奈良時代）】

帯金具（丸軋）が出土しており、位をもった官人の存在がうかがわれます。



#### 【第367号土坑（室町時代）】

第39号溝跡の南東隅にあたる場所から土師質土器小皿が3枚まとまった状態で出土しました。そのうちの1枚が輪宝墨書土器です。



#### 【第6号鍛冶工房跡（奈良時代）】

1辺が約5mの方形で、作業用と考えられる土坑があり、土坑の北・南側でそれぞれ2か所の鍛冶炉を確認しました。

